

# 小田原ガイド協会だより

— OGO 第88号 —

NPO法人  
小田原ガイド協会

小田原市城内3-22（〒250-0014）  
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

所感

会長  
堀池 衡太郎

## 令和3年度を迎えて

巻頭

昨年度は「感染症に始まり感染症で終わった」年度である。幸運にも協会員には一名の罹患者もおらず、またご家族関係にも発症が伝えられていない点は、協会員本人は勿論、ご家族一同にも感謝の年度であったと考える。

今から考えると協会の動きは早かったと思う。一月二十七日に除菌用のアルコール液を用意したが、二日後にはどこの店舗でも除菌剤は勿論、マスクも一枚も買えない状態であった。

感染症禍の中で協会員のモチベーション低下を防ぐために、出来る範囲で活動した年度であった。その中で「今だから出来る事」「今後の協会として継承出来る開発は何か」との目標を持って動いたが、感染症での自粛規制発令で充分な動きが出来なかった。

今だから出来ることとして、小田原の観光コンテンツを利用してコンパクトガイドを試みた。「地域を代表する作家」を今までの市関連とは別部門とのコラボで催行した。「尾崎一雄を知っていますか」本を片手にぶらぶら散歩は、小田原市立図書館・文学館・東口図書館・市民交流センターUMECO所属の朗読会【声の万華鏡】五団体とのコラボで、朗読会・

作家の実家縁の地の散策を実施した。

「小田原あんこ」——お茶の文化のある小田原では「あんこ」の文化が色濃く残っており、生菓子から団子・アンパンまで、（一社）小田原市観光協会・小田急電鉄（株）・（有）鈴木製館所・各店との取組みで小冊子発行に協力し、「史跡とあんこ」「まち歩きとあんこ」「文学とあんこ」等を催行した。なお入店に際しては、一組最大七名に分けた。その他にも企画はしたが、感染症禍で中止となった。

今年度は、上記内容を従来の小田原観光のコンテンツガイドコースに加えることで、多用途のあるガイドが出来、回遊性を増やせると考えている。それが、

①観光まちづくりとその体制の多様性に対応するために行った実証実験の結果を今年度は催行したものである。

②協会の事業を継承し充実を図ることは常に求められるものだが、これも昨年実証実験したレンタサイクルを使った「海・山・里地形に育まれた歴史と文化」の回遊を、「ガイドあり」「推奨するコース」等を発表し一歩前に出しても良いと考える。

これも感染症の状況で開催出来るか否かは微妙な状態である。

③恐らく向う三年間はこの状態が続くと考えると、今年も「今だから出来ること」を地道に催行して行く事が最善の方法と考える。

すでに昨年から取り組んでいる小田原の観光コンテンツの洗い出しと学芸員とのコラボを使い「新しい観光ニーズ」の発掘を継続的に考えたい。

④小田原市観光交流センター内にレンタサイクルが設置され、ガイド協会の活動範囲が広がる。活動開始は七月中旬の予定で進められているが、協会員の有効的な人員配置や方法は大切な要素なので、稼働しながらより活動しやすい現場にしたいものである。

⑤協会の質の向上と、ガイド養成講座の開催は協会の必須目標であり、絶えず生涯学習として切磋琢磨したいものである。

今年度終了した時に明日が見える協会であるように運営する考えである。そのためには、協会員の変わらぬ協力は必要である。感染症に正しく向かい、進むべき時は躊躇なく進みたいものであり、撤退すべき時も躊躇なく撤退すべきと考えている。

◆企画ガイド◆

おかめ桜の咲く頃  
根府川から景勝地・史跡を巡る

土井 正代

昨年本コースを企画したがコロナ禍の為中止。今年も危ぶまれたが十五名の参加者を迎え決行。幸い天気に恵まれ、根府川周辺にはおかめ桜が満開で、参加のお客様をお出迎え。参加者の一声が「ワースキレい」とカメラを向けていた。ガイドとお客様、お客様同士の距離に注意しながら歩を進めた。

根府川付近の史跡を巡り、釈迦堂へ。根府川は関東大震災の被害が熾烈であった。駅周辺での山崩れによる地滑り、白糸川両岸の家家を巻き込みながら海に流れた土石流。これは地震発生から五分後の出来事だ。仰ぎ見上げ手を合わせていた観音像も今は階段を降り日々幸せを願っている。3・11東日本大震災に思いを巡らすひとときでした。

海岸沿いを江ノ浦漁港へと進む。房総は見えないが海と空一面の青、境界線が判らず、ただ皆の顔がすがすがしく思えた。



漁港から江ノ浦展望台へ向かいミカン畑の中の急な坂道を上る。展望台では東洋のリビエラを目に収めた（誰もイタリアの海岸は見ている）。途中みかんの価格を交渉し、ふきのとうと一緒にリュックに収め「せっかく来たのだからお土産が楽しみ」と重くなった背中も満足げ。

一望荘前のおかめ桜も満開。桜を見るとワクワクする。若返りホルモンの所為と皆でわいわい語り合う。駅近く来た所で眼下に根府川関所跡、見上げると一望荘。江戸時代の旅人が通った道。我々は一山超えてきたのだ。

「良く歩いたね」と感嘆の声。初参加者はおらず一名は百回以上参加の方でした。皆様から「来て良かった」「また参加したい」との声を聞き安堵し解散した。ガイド協会ファンが多いことが嬉しかった。

◆企画ガイド◆

河村城址と桜  
山北の春をウォーキング

富澤 節子

一年遅れの企画ですが、再度のお申込みをしてくださった方も何人かいらつしゃいました。桜は二三日前が満開だったようです。弁当無しで一時間に一本の御殿場線に合わせての歩きでした。

鉄道公園側から河村城址に向かい、桜並木沿いに花吹雪を受けながらのゴールです。



私が受け持ったグループは山北が鉄道の街だったと知る人はいま

せんでした。鉄道公園で、電車ごっこをする時は両腕を同時に「シュツシュツポッポ」するけれど、本当の機関車は車輪が同時ではなくて自転車をこぐ時のように互い違いでないと動かないと展示されている動輪を見ていただきながら話すと皆さまから「へえー」ポイントを頂きました。

盛翁寺の横から河村城へと向かい、途中、お客様と山吹や諸葛菜の話で急坂を登り切り再びの急階段です。本当に山吹が七重八重と見事でした。お客様の方から太田道灌の話までしていただき、本城郭につきました。

運命のいたずらか、平安末期に山北に登場した河村氏が常に敗者側に組した事、その後、最終の支配者であった北条氏も含め結局は敗者の城であったからこそロマンを感じてしまいます。個人的に山北は大好きな場所です。晴天と見事な眺望が味方になり、お客様の殆どは山北も河村城も初めてだけれど、「もう一度来たい」と仰っていた嬉しかったです。へ山北の春をウォーキング♪万歳！

ご一緒させていただいたお客様、下調べに協力いただいた山北町生涯学習課の方、ガイド協会先輩や企画の仲間へ感謝です。

# インタビュー企画 Playback おだわら

## 網一色 身近な歴史的史跡

第八回語り手 井上 かほる

### ■子供の頃の思い出は？

生れは小田原の緑町、寺町との境で、我が家の後ろには青物市場（当時小田原では一番大きな市場）がありました。小学校は新玉小学校で、新道・新大馬場通りから、「初音新地」（現神奈中ボーリング周辺）の前を通って通いました。通学時間帯の「初音新地」は静かなものでした。

子供の頃は、今のガイド協会事務所所の二階が図書館で、友達の祖父母が住み込みの管理人だったので、友達のお使いと一緒に来るのがよくありました。おじいさんがいつも本を借りて来てくれて一冊読んで帰った記憶があります。「のらくろ」だったかなあ……。その頃はお城と言うより今の馬屋曲輪は「水の公園」と言って、土

橋から入ると一軒お茶屋が有り、とても静かなきれいな場所でも少なく、ブランコなどの子供の遊具が幾つかあるだけですが、その公園の佇まいが好きでした

### ■お仕事やご結婚は？

勤務先は酒匂で、そこで社内結婚をしました。売れ残り同士の結婚です。デートはよく海や川に釣りに行きました。

出産で、家で着付けの仕事を始め、その後結婚式の衣装室にも勤めました。一日十八組の結婚式が入り、朝四時に出勤することもあり、今思うとよく頑張ったと思います

### ■今のお住まいにはいつから？

結婚して今の住まいに入りました。網一色と云われる所で、もう五十年。周りには色々な史跡や多くのお寺がありますが、「酒匂の渡し」や「家康陣場」、家の前の「千貫橋」は江戸時代にかげられた石橋の欄干でこの橋の架かる道が旧東海道だったとか、身近な歴史的史跡については、後にシルバー大学で勉強してから解ったことがほとんどですね。

### ■協会に入会したきっかけは？

六十歳で結婚式場を辞めた時、シルバー大学を知り軽い気持ちで入学しました。シルバー大学四期

生、歴史観光科、六十名、あつという間の三年間でしたが、文学、特に北原白秋に興味を持ちました。一期生の方が卒業前にいらして「ガイド協会に是非入って下さい」とのことで、多くの人が入会しました。二十一名ですが、私ともう一名が昭和二桁で一番若いと言われました（笑）。今はひとりきりになってしまいました。

### ■入会当時の協会は？

最初は藤棚駐車場のところが事務所で、入会した年に現在の事務所引越しました。先輩がしっかりしていて、とてもお当番の變更なんて言い出せませんでした。今の当番表は同期の人が初めて作り、少し便利になりました。

企画ガイドも始めたばかりで、参加者はお客様より会員の方が多かったです。

### ■思い出に残る企画は？

文学関係が多かったですが、特に大変だったのは三茶人の企画ですかね。ガイドプラスお点前をするという企画です。松永記念館をお借りしてお客様全員にお茶を一点でました。三か月位毎月続けて、参加者も八十名位いらして盛況でしたね。白秋の企画は当時毎年五月のカラタチ記念日に合わせて実施していましたね。カラタチ

記念日とは白秋が「からたちの花」を作詞した日に因んでつけられたそうです。

太宰治ゆかりの下曾我の雄山荘はとても残念でしたね。市で買い取る話が有ったようですが土地と建物の所有者が違っていただけに進まず、そんな時、たまたま勉強会で歩いた翌日の明け方に火事になってショックでした。

### ■協会にこれからの望むことは？

私たちの頃より皆で作り上げていく感じで楽しいですね。新型コロナウイルス感染症の中、協会運営には御苦労が多いと思いますが、発足以来の心得に変わりなく、「訪れて良かった」と思ってもらえる様なガイドが続くようにと思っています。

（文責：編集部）

### ▲千貫橋の欄干



千貫橋に  
使われた橋桁▶  
(網一色八幡神社内)

千利休自刃の謎に焦点を当てた映画である。原作は井上靖。脚本依田義賢（『巨匠溝口健二監督諸作の脚本家』。監督は社会派といわれた熊井啓。この年（平成元年）には勅使河原宏監督の『利休』も公開され、ちよつとしたブームが起きたようだ。元和四年（一六一八）利休の死から二十七年後、人里離れた草庵に住む利休の弟子本覚坊は、ある日、織田有楽斎のもとを訪れる。有楽斎は「利休どのが死を賜わった訳は本当のところはどうなのだろう」と秀吉の怒りを買って切腹した理由を解明しようとしていて、本覚坊は感動を覚える。そして茶を点てた際、有楽斎は用意した茶杓を前に「これはまさしく古田織部の作だ」続けて「強い茶杓だろ：やはり腹を切るだけのものがある」重ねて「千宗易利休、切腹。山上宗二、切腹。古田織部も切腹。これといわれる茶湯者になるには誰もが切腹しなければならぬのか」と云う。

千利休・山上宗二・古田織部。奇しくもこの三人は、天正一八年の春、小田原合戦に居合わせた。利休は秀吉の側近（茶頭）として小田原まで同行。古田織部は百二十騎をもつて参陣、北方隊に加わり武蔵国諸城で戦った。利休との手紙のやり取りもあり、ふたりに熱海の湯に入った記録もあるという。

一方、山上宗二はかつて秀吉から追放され北条氏に茶の湯の指導をしていた。合戦中に城を抜け出し、師匠利休と再会を果す。そして利休のとりなしで秀吉の手前を務めることに。とこ

おだわら シネマニア ④  
天正18年 三茶人  
上田 信一



千利休（三船敏郎）と本覚坊（奥田瑛二）



織田有楽斎（萬屋錦之介）

千利休 本覚坊遺文  
熊井啓 監督作品  
1989年10月公開/107分

久野の郷土史家立木望隆氏の『概説 北条幻庵』の発刊が昭和45年。『秀吉と利休』は幻庵の資料に乏しい時期の作品ともいえる。しかし、作品発表時における野上女史の年齢は七七歳。しかも代表作。驚嘆に値する。史実はともかく『本覚坊遺文』では、有楽斎が、小田原に居合わせた三人の茶人が揃って自刃したことに感慨を覚え、最大の

謎、利休切腹の真の姿に迫ってゆく過程が見どころとなる。『利休』では、秀吉の朝鮮出兵への諫言をその誘因としている。この作品での利休役は三国廉太郎。片や『本覚坊遺文』では三船敏郎。ふたりとも一時代を画した名優である。茶器に例えるのと、三船は「長次郎の黒茶碗」を思わせる「豪胆」な所作、三国は「竹の花入れ」のような「枯淡」の魅力、といったところか。

映画の佳境は、利休晩年に山崎の妙喜庵で催された真夜中の茶会にある。客が二人いて最初は影だけの存在だったが、やがて、ひとりは山上宗二、もうひとりは古田織部だと有楽斎が見抜く。さらに本覚坊の悟りのような次の語りが印象に残る。「あそこにおられたお三方の間には、言ってみれば死の約束が取り交わされたに違いございませぬ。それぞれのお心の中で…」

終盤、有楽斎は危篤に陥るが、この時でもなお、利休の最期の心境を知りたがっていた。本覚坊は夢にみた利休と秀吉の最期の茶事の光景を語り始める。

利休は秀吉にはじめて会った頃のことを述懐し「あれから今日まで、上さまにお仕えしてまいりましたが、いよいよお別れの日となりました……死を賜わったお蔭で、宗易は佗茶というものがいかなるものか、初めて判ったような気がしております……」秀吉は懐柔を計ろうとするのだが、利休の気迫がその空気を引き裂く「……それなのに、上さまは刀をお抜きになりました……そうなれば、宗易は宗易で、上さまに対して刀を抜くほかございませぬ」

東北の小さな城、片倉小十郎の白石城を訪ねて



沢端川と武家屋敷

東北本線で宇都宮を過ぎると広い関東平野の終わりに近づく。那須連山が遠くになると白河駅に到着、ここから僕の好きな白河小峰城、二本松城、白石城が続く。その中で今回は一昨年早春に訪れた白石城の話をしたい。白石城は伊達政宗に小田原参陣を献策した片倉小十郎景綱の城である。駅から徒歩十五分程で城の入口に到着する。三階櫓(天守閣)のある本丸には石段をひと上りである。城の中心部は三の丸外堀に当たる「沢端川」に囲まれた丘の上であり、三階櫓は平成七年に木造で復元された。中にはガイドさんが常駐していて説明を聞く事が出来る。また鎧を着て記念写真も撮れるので、僕は生まれて初めて鎧を着て小十郎になった気分です。記念撮影をした。急な階段を登り三階櫓の最上階に着く。白石の街並みと蔵王連山が一望出来る。

お城見学が終わって昼になった。数年前、「おとなの休日倶楽部」のコマーシャルで、吉永小百合さんが武家屋敷を背景に、流れる疎水の橋の上で撮影したコマを記憶されている方もいると思うが、その撮影場所が旧小関家で、流れる疎水が「沢端川」だ。予約したレストランはその橋の少し上流にある。「アトリエド・フク」という古民家に入れたおしゃべりな佇まいのお店である。仙台のホテルで修行したシェフとその両親の三人で営業しており、地元食材を使いリーズナブルな価格でフレンチを提供してくれる。僕は昼からワインを飲み上機嫌で店を出ると冷たい雨が降っていた。駅までの道すがら、「蔵王酒造」の「純米酒」と、駅前「むらたや」の「くるみゆべし」でも買って帰る事にしよう。

【2021年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

	件名	日時・集合場所	参加費	コース
企画ガイド	箱根堂ヶ島渓谷ぐるっと散策 可憐な花イワタバコを見ながら 渓谷沿いをウォーキング	6/18(金) 6/24(木) 約4km 9時30分～12時30分頃 箱根登山鉄道宮ノ下駅集合	700円	宮ノ下駅～熊野神社～富士屋ホテル ～渓谷散策～川久保発電所 ～太閤の石風呂～菊華荘～宮ノ下駅
号外	秀吉天下取り 総仕上げコース『石垣山城』	6/6(日) 6/20(日) 約4km 9時20分～13時頃 小田原駅観光案内所前集合	700円+ 別途バス代 500円	小田原駅～【回遊バス】～ 石垣山城～箕ヶ窪橋～姫の水橋～ 朝日の井戸～石垣山城内
号外	『総構』景色満喫ウォーキング 早雲公顕彰五百年の足跡を巡る	6/12(日) 6/26(日) 約4km 9時30分～12時30分頃 小田原駅観光案内所前集合	700円	小田原駅～山の神台～ 稲荷森～大堀切～ 三ノ丸新堀～城址公園藤棚前
まち歩き	老舗なりわいを訪ね 展望台から城下を展望	6月24日(木) 約3km 9時30分～12時30分頃 小田原駅西口集合	700円	小田原駅～青橋～小田原城～ 二宮神社～本町通り～お堀端通り～ ミナカ展望台

・小田原ガイド協会ホームページでもご案内しております。\*7月・8月の予定はありません。  
・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止の場合があります。

計報

五月三日、当協会会員の和天元穂理事が逝去されました。長年のご尽力に感謝するとともに心からご冥福をお祈りいたします。

【三月以降の退会者】

高橋光男さん  
杉崎和義さん  
鈴木康子さん  
ありがとうございました

【編集後記】

五月五日。菖蒲湯に浸りながら思ったこと。和田さんがいなくなってしまう。それも突然に……。数日前の電話で響いた「三班の和田でございます」という元気な声。その声が蘇ってくるのです。泪。「広島県海蔵寺に氏直の墓があるさ」「大河ドラマ？ 明智光秀は好きな武将じゃないなあ」「火坂雅志と伊東潤の『北条五代』はちょっとふたりの作風が違うかな？」等々、いつも気軽に話しかけてくださいました。コロナ禍で、ゆっくり話し合う機会もなくお別れとなってしまい、とても残念です。合掌。(U)

【編集委員】

飯田宗男 磯崎知可子  
上田信一 柏木由美子

## 令和3年度賛助会員

### 賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

鱒 壺 北 條	080-5465-0066
伊 勢 屋	22-3378
ういろう	24-0560
魚市場食堂	23-3818
江 嶋	22-1661
小田原種秀本店	22-6238
籠 清	22-0251
籠 常 商 店	23-1807
柏木美術鋳物研究所	22-4328
カネタ前田商店	23-4741
居酒屋 金 時	23-0721
幸 繁	22-5155
グリル 木の实	22-2912
さがみ信用金庫	24-3161
志村屋米穀店	24-2224
杉 兼 商 店	22-5051
鈴廣かまぼこ	22-2333
せきしん運輸	42-7375
田 毎	24-3030

☎ 0465-

田中屋本店	22-5545
だるま料理店	22-4128
欄干橋ちん里う	23-1547
露木木工所	22-5995
東 崑 庵	22-4657
鳥 かつ 楼	22-2078
菜 の 花	24-5688
箱根屋酒店	22-6416
小田原早川漁村	24-7800
平 井 書 店	22-5370
松崎屋陶器店	24-2479
マツシタ靴店	24-2233
万 葉 の 湯	23-1126
柳屋ベーカリー	23-2342
山市湯川商店	22-5637
山 安	21-1137
R Y O	20-0077
わらべ菜魚洞	22-4858

【50音順】